

平成19年度 教師海外研修(派遣国:マレーシア)実践報告書

1. タイトル マレーシアと日本とのつながり

2. 氏名 垣成 崇雄

学校名 大阪市立梅南小学校 担当教科: 6年 担任

3. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数: 7時間

4. 対象生徒・学年 6年生 対象人数: 24人

5. カリキュラム案

(1)実践の目的

- ・ マレーシアと日本との違いを発見する。
- ・ マレーシアと日本とのつながり、そして私たちとのつながりについて知る。
- ・ パームオイルをめぐる諸問題を通して、自分の生き方を考える。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
「マレーシアってどんな国？」 ①日本との違いを探そう ②マレーシアの算数に挑戦！ ねらい: マレーシアという国に興味を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ●「マレーシアについて知っていることは？」 ●教師海外研修の概要を説明する。 ●マレーシアで撮った写真を見て、日本との違いを探す。 ●マレーシアの算数の問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシアの地図 ・スライド ・マレーシアで撮った写真^{*1} ・ワークシート(3年生の算数の問題)
「モノと写真をつなげ! ~ストーリーづくりをしよう~」 ねらい: ストーリーづくりを通して、そのモノが何かを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ●マレーシアに関するモノと写真とをつなぎあわせてグループで自由にストーリーづくりをする。 ●できたストーリーを発表し合い、他グループのモノと写真が何であったかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラヤシの種・切手などマレーシアで収集したもの ・それぞれのモノに関する写真^{*2}
「マレーシアクイズ」 ねらい: 前時のストーリーづくりで出てきたモノが何かを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●「モノと写真をつなげ!」でお題となったモノが何であるのか、何に使われているのかを考える。 ●クイズの答えを家で調べたり、解答を聞いたりすることで、マレーシアという国が持つ特徴を知る。 ●(宿題): お家にあるパームオイル製品を調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート^{*3} ・スライド
「マレーシアと日本とのつながり、そして私たちとのつながり」 ねらい: パームオイルをめぐるさまざまな立場があることを知り、「私たちはどのように生活すべきか」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題に関するアンケートをする。 ●パームオイル製品が私たちの生活に密着していることを知る。 ●オランウータン・リハビリセンターのビデオを見る。 ●『素敵な宇宙船地球号』のビデオを見る。 ●世界から貧しさをなくす30の方法』の「地球にやさしい植物性の実態」のページ(pp.12~15)を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート^{*4} ・『Sepilok Orangutan Appeal UK』のビデオ ・『素敵な宇宙船地球号』のビデオ ・『世界から貧しさをなくす30の方法』(合同出版)

6. 授業の詳細

1限目 「マレーシアってどんな国？」

①JICA 教師海外研修について

②日本と違うところを探そう！

マレーシアで撮った計72枚の写真を見て、「日本と違うところ」をグループごとに探し出した(写真1)。見つけたことをふせんシールに書いてポスターに貼り、クラス全体で共有できるようにした。

③マレーシアの算数に挑戦！

3年生の教材を使って、算数の問題に取り組んだ。英語が読めなくても解ける問題と英語が読めないと解けない問題の2種類を用意した。

<児童の反応>

授業の初めに「マレーシアについて知っていることは？」と質問したが、地理的な位置を知っているだけでほとんど何も知らないようだった。②では、たくさんの写真を前に、「あれも違う、これも違う」と子どもたちは積極的に多くの違いを見つけていた。③では、「英語が読めなくても数が2つあれば予想して計算できる！」と言って、問題を予想して解決している子どももいた。

<感想>

・マレーシアのおもしろいこと、変わっていることを知って、日本とのちがいがたくさんわかったし、自分があたり前にしていることが、外国ではそんなことはないということもわかったので、楽しかったです。
・マレーシアは、貧しくて、ゲームなどが無いと思っていました。勉強をして、マレーシアの印象が変わり、少しマレーシアのことがわかりました。もっと他の国のことも知りたくなりました。

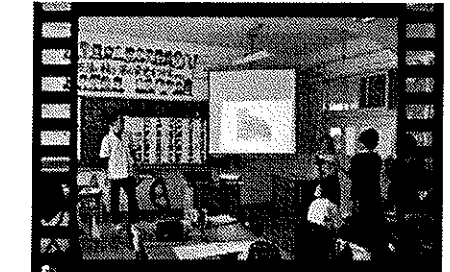
2, 3限目 「モノと写真をつなげ！～ストーリーづくりをしよう～」

マレーシアに関するモノと、それに関する写真をグループごとに用意し、「モノと写真をつなげて物語をつくる」という活動をおこなった。次時でアブラヤシの実とオランウータンにつながりがあることに気づかせるため、(A)・(B)の写真をどちらもアブラヤシのプランテーションの写真にした。

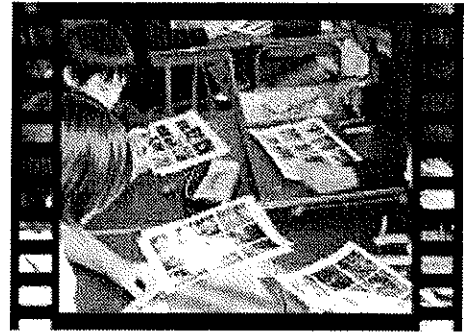
- | |
|--|
| (A) アブラヤシの実 + 柿の種 + プランテーションの写真 |
| (B) オランウータンの人形 + リハビリテーションセンターのステッカー + プランテーションの写真 |
| (C) ハラルマークのあるピーナッツ + ハラルマークのある砂糖 + マクドナルドの写真 |
| (D) キブラット(メッカの方角を知るためのコンパス) + コーラン + メッカを指す矢印の写真 |
| (F) 切手 + 制服(マレー系用・中華系用) + トウドウンをかぶった中学生の写真 |
| (G) 軍票 + 1リンギットの紙幣 + 博物館の壁画の写真 |

<児童の反応>

どのグループも楽しんでストーリーづくりに取り組み、発表していた(写真2)。この授業時間内では答えを教えなかったので、「早く答えが知りたい」という子どもが多かった。



(写真2)



(写真1)

<感想>

- ・変な種の正体は何ですか。
- ・3つのものの関連が気になります。

4, 5限目 「マレーシアクイズ」

①「マレーシアクイズ」

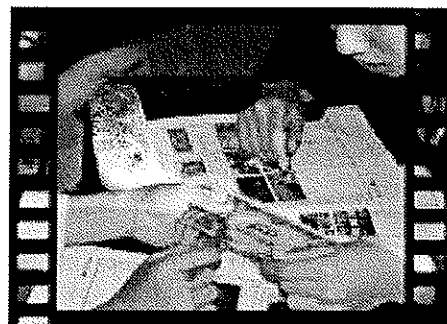
前時では、各グループで違う課題に取り組んだが、本時ではそれらが何であったか、一人ひとりが予想した。(写真3)

②「マレーシアクイズ」の解答と解説

パームオイルやオランウータンのリハビリ、多民族国家について、ムスリムの生活のようすなどを説明した。

<児童の反応>

マレーシアクイズを宿題にしたので、家でインターネットなどを用いて調べてきた子もいた。また、家族と一緒に考えた子もたくさんいて、おうちの人から「答えが気になります」「子どもと一緒に必死になって調べました」という声も聞かれた。



(写真3)

6, 7限目 「マレーシアと日本、そして私たちとのつながり」

①環境問題についてのアンケート※4

②お家にあったパームオイル製品は？

私たちの生活のなかにパームオイル製品があふれていることを知る。

③オランウータン・リハビリセンターのビデオを見る(写真4)。

④『素敵な宇宙船地球号』のビデオを見る。

「オランウータンが自然で生活できなくなり、リハビリをしなければいけなくなったこと」が私たちの生活が影響しているということを知る。

⑤『世界から貧しさをなくす30の方法』(合同出版)のなかから、「地球にやさしい植物性の実態」のページ(pp.12~15)を読む。

<児童の反応>

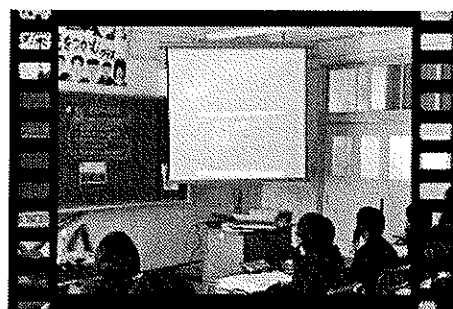
③のビデオを見た後、「なぜ、オランウータンは保護されることになったのでしょうか？」と質問すると、「絶滅しそうだから」「えさがなくなったから」「しつけのため」「ケガをしたから」という答えがあった。ここで、ストーリーづくりのとき、A・Bの両方に同じ写真があったことを思い出させ、アブラヤシのプランテーションが密接に関係していることを教えた。その後、『素敵な宇宙船地球号』のビデオを見せ、パームオイルをめぐるさまざまな立場があり、自分たちも消費者という立場であることを教えた。

<感想>

・パームオイルは、安くて良い製品だと思っていたけど、現地ではいろいろな問題があってまだまだ「地球に優しい」製品ではないと思いました。

・パームオイルは、簡単に手に入ると思っていたけど、人間とゾウがあんなにも苦しんでいるとは知らなかった。ワナにかかったゾウもかわいそうだし、人間がワナをかけるから悪いと思いました。ワナをかける人、かかったゾウを助ける人、いろいろな考えをもった人がいるんだと思った。

・アブラヤシの木は環境にいいものだと思っていたけど、アブラヤシのプランテーションのせいで、ゾウのゆく手をはばんでいることがわかって、環境にやさしいだけじゃなくて、動物にもいい環境もつくってほしいと思いました。



(写真4)

今後の予定 「自分の生き方について考えてみよう」

パームオイルをめぐる諸問題を通して、「これからの生き方を考える」きっかけにつながったと思う。3学期には、『あなたが世界を変える日～12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ～』（学陽書房）を紹介して同世代の生き方・考え方を知ったり、ゲストティーチャーを招いて色々な人の生き方・考え方を教えてもらったりして、自分の生き方や将来の夢について考える機会をつくっていききたい。

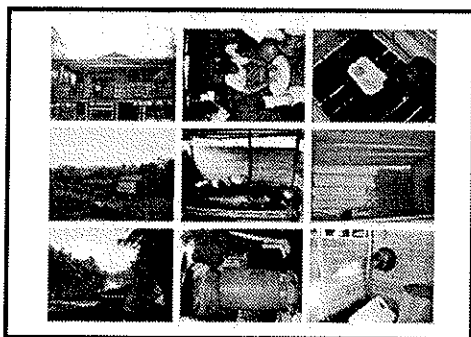
7. 所感・反省点・改善策

マレーシアで学んだことや考えたことを一方的に教えるだけにならないようにしたいと思い、たくさんの写真を見せて子どもたちが興味をもつことができるよう工夫した。私自身、正直何が一番伝えたいのかが定まらないまま実践をスタートさせたが、授業を通して考えていくうちに、「地球に優しい製品」が実は野生生物に影響を与えていること、自分たちが知らないところで環境破壊をしている一員になっていることを伝えたいと考えるようになった。

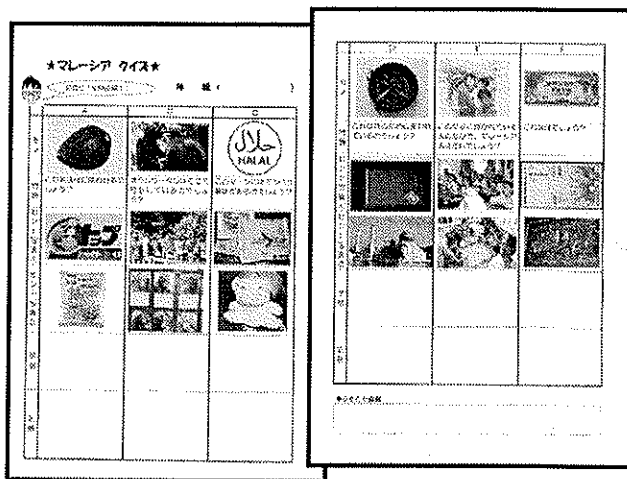
アンケート※4の結果、子どもたちは子どもなりに環境のことを考えて生活していることや環境破壊はいけないことだと考えていることがわかった。また、ほとんどの子どもが「地球に優しい製品」を購入したいと応えていた。しかし、そのような想いとは裏腹に、パームオイルの消費者である子どもたちは知らないうちに野生生物に影響を与える一員になっていて、「地球に優しい製品」が実は環境破壊につながっているという事実がある。『世界から貧しさをなくす30の方法』には、パームオイルの問題について「解決の方向がある」とすれば、以下のようなことを進めていくことであろう」と書かれているが、ここは敢えてふせておき、自分たちで考えていってほしいということでこの授業をしめくくった。

子どもたちがどれだけ教師の意図を感じ取ることができたかはわからないが、子どもたちのなかには「私たちはどんな生活をすべきか」という質問に対して必死に考え、授業の後に「答えを教えてください」という子もいた。私自身も明確な答えなどなく、「これから一緒に考えていかなければならないね」としか言えなかったが、子どもたちと同様に私自身もこの問題について考え続けたいという姿勢が得られたことが一番の成果だったと思う。

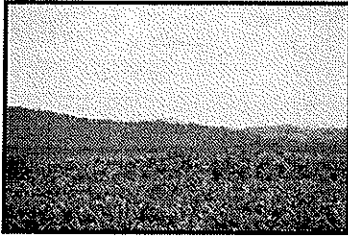
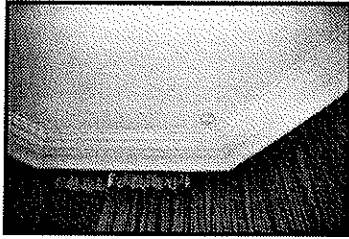
8. 資料



※1) 1限目で使用したクアラルンプール、コタキナバル、ダガット村で撮った写真の一例



※3) マレーシアクイズ



※2)「モノと写真をつなげ！」の写真の一例

<質問①> 環境問題について興味がありますか？(はい・いいえ)

※(はい)と答えた人は、どんなことを知っていますか？

<質問②> 環境のことを考えて生活していますか？(はい・いいえ)

※(はい)と答えた人は、それはどんなことですか？

<質問③> 環境はかいをしている人たちについてどう思いますか？

<質問④> A:「地球に優しい」と書かれた製品

B:環境をあまり考えていない製品

あなたは、どちらを買おうと思いますか？ (A・B)

※それはなぜですか？

<質問⑤> 環境に優しい暮らしをしたいと思いませんか？(はい・いいえ)

※4)環境問題についてのアンケート